



佐高 *SGH*通信 2017

スーパー グローバル ハイスクール

No. 52 (平成30年3月30日発行)

海外グローバル研修

平成30年3月14日(水)～23日(金)の10日間の日程で、高校1年生の生徒43名が海外グローバル研修を行いました。カナダのバンクーバー近郊のチリワックという自然豊かな地で、ホームステイをしながら様々な活動に精力的に取り組みました。

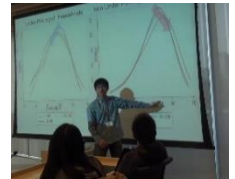
UBC (ブリティッシュコロンビア大学) での課題研究発表

2月に行った課題研究発表会で優勝した班(発表題目: **放課後学習の現状とこれから**)が、海外の難関大学である**ブリティッシュコロンビア大学**で、現地の大学生などに向けて英語でプレゼンテーションを行いました。どの質問にも適切に英語で返答をすることができ、拍手をいただきました。

UBC 発表班の感想

1年1組 新井 康平

UBCの学生たちから核心をつくような鋭い質問がいくつもあり、自分にはなかった視点からも研究内容を考えるよいきっかけになった。この貴重な経験を今後にしっかり生かしていきたい。プレゼンの準備を始めたばかりの段階では、何が研究の要点なのか?よく分からず、長々と話すだけで内容のないものでした。しかし準備を進めていく中で、自分たちの伝えたいことが定まり、ジェスチャーや寸劇も取り入れながら、班としての個性の出せるプレゼンを創り上げることができました。



1年1組 葛貫 千絵

私たちは、UBCで発表するために今まで練習を重ねてきました。最初は英語での発表に戸惑い、ただ暗唱するだけでしたが、文化会館での発表のときには自分の言葉で話せるようになり、UBCでは聞き取りやすいような話し方を心掛けられました。この経験により、私は色々な面で大きく成長できたので、やってよかったと本当に思いました。



1年1組 茂木 愛唯

文化会館での発表からUBCの発表まで、出来ていなかった強調する部分や説得力を上げるために練習をしました。その練習もあり、UBCの発表では文化会館の時よりもよい発表ができたと思います。また、質問も予想よりもはるかに多く、緊張もしましたが、新たな視点などにも気づくことができ、とても良い経験になったと思います。この貴重な経験を活かして、これからの発表にも役立てていきたいです。



1年3組 中村 優那

今回のUBCでの発表は、とても刺激的なものでした。大学生からたくさんの質問を班のメンバー全員で相談して答えられたことが、班としても自分自身としても成長できたかなと思います。もっと改善すべき点がたくさん見つかったので、さらに改善を進めていきたいです。



1年4組 鈴木 陽大

今回大学生に初めて聞いてもらいましたが、たくさんの質問を受けて驚きました。特に最後の質問では、班員みんなで考えて答えを出すことができよかったと思います。今回の発表に向けて班員みんなで準備をして練習を何度もしてわかりやすく伝えられるようにしてきました。これらの経験はとても大きなものであり素晴らしいものだと思います。UBCで発表できたことを誇りに思い、これからもプレゼンテーションは積極的に行いたいと思います。



Langley Secondary School (LSS)での課題研究発表

カナダでの発表は、代表班だけでなくすべての班が行いました。全8班はチリワックからバスで約1時間のLSSでカナダの生徒を前に、堂々とプレゼンを2回行うことができました。

生徒の感想

1班 (1年1組 安生 温大)

私たち1班には、英語でのプレゼンテーションに加えて、カナダの方にカンロの説明をするという難題もありました。しかし、カンロをゼリーの様な物だと例えることで解決できました。また地域の経済の課題を、景況を用いて具体的にすることで分かりやすくしました。そして「ここねっと」でのフィールドワークも行いました。この様にして、プレゼンテーションの英語、重要性、実現性と、多面的により良くすることができたと思います。

2班 (1年1組 杉江 悟)

我々は「水道の危機」と題し、今の日本が抱える水道事業の問題の打開策として水道事業の民営化を提言しました。海外の例を参考にしながら、民営化の効果と影響を考え、より具体的な提言になるよう努めました。日本の水道について考える機会になりました。

3班 (1年1組 吉田 紅介)

僕たちの班は12月にメンバーが決まり1から研究をやり直しました。班員全員が協力的で何度もFWに行くことができ在日外国籍児童の実態を深く学びました。カナダにも、もちろん在カナダ外国籍児童はいるわけであり、そういう人たちのことをセカンダリースクールの生徒が考えるきっかけになってくれたら嬉しいです。

4班 (1年2組 渡末 遊夢)

私たちは2月の課題研究発表コンテストでは全体の2位という結果でした。1位になれませんでした。現地のラングリー・セカンダリースクールでの発表も堂々で行うことができました。仲間と1つの結果を出すことの難しさ、協調性、今後の人生に必要なことを学びました。

6班 (1年1組 神林 拓未)

カナダでの発表に至るまで、追加のFWを行ったり、原稿を何度も読み合わせたりして、少ない時間で忙しい中でしたが協力して準備に取り組むことができました。本番では班員の演技力・スピーチ力を活かした良い発表ができました。

7班 (1年1組 荻野 竣右)

数ヶ月という短い間で、チームワークの力を感じました。私たちの班は、研究内容が二転三転していて、準備が一番遅れていた班でした。しかし、班の全員が自分のやるべきこと、仲間を信頼することができた結果、発表を大成功に導けたと思います。

8班 (1年1組 君塚 蓮)

私たちの班はぜんざいという和のスイーツをカナダの人にどう説明するかという難題がありました。しかし、なかなかみんなが集まらない中で時間を見つけ、全員で協力しあい難題をクリアすることができました。協調性、英語力など大切なことを学べたと思います。

現地の高校の授業・

英会話クラス



日程前半では高校の授業に参加し、日程後半は、ネイティブの先生による英会話のレッスンを楽しむことができました。

自然保護

ボランティア活動



Great Blue Heron Nature Reserve というチリワックで主にアオサギの保護活動を行っている団体を訪れ、雑草取りのボランティアを行いました。

Farewell Party の開催



ホストファミリーを招いてさよならパーティーを行いました。準備・練習に時間をかけただけあって、very organizedとお褒めの言葉をいただきました。充実した時間を過ごすことができました。